

D X (Digital Transformation) と G X (Green Transformation) は最近よく並列で用いられる。「デジタル化と緑・脱炭素(ガス)化」と訳す人もいる。D X と G X は、気候変動問題への対応の両輪でもあるかのようにである。確かにそのように言えなくもないが、どのように理解するのが正しいのか考えてみたい。

Digital は、Analog (ue) の反対語で「数字の」とか「数字表示の」という意味である。X は、

Trans のことなので、Transformation は、X formation とも言

うらしい。すなわち、D X は数字表示の変革 (Transformation) である。「進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへ変革すること」という意味合いのようである。温暖化問題の解決の手段であるのみならず、あらゆる社会生活変革の手段と言える。

Green は、本来の意味は「緑の、緑化する」であろうが、炭素を発生させない

ようにするという意味でも使われている。同様の意味では、Carbon Neutral もあるが、Carbon Neutral は、炭素の排出と吸収を同量(ネットゼロ)にするというところで、G X と異なり、過去に蓄積された炭素ガスを減らしたりなくなったりする意味まで含まれないような気がする。

D X と G X の相違点 ①先述の通り、D X は社会生活変革の手段であったが、G X は炭素ガスを減らしたりなくな

D X と G X とは？

りする目的そのものである。②D X は社会生活全般を対象とするのに対し、G X は現在最も注目を集める気候変動問題への対応するための概念といえよう。

「D X と G X」とは、「デジタル化」という手段を用いて、脱炭素化という目的も達成される」ということであろう。また、D X は、気候変動問題への対応のみならず、S D G s 全般、持続可能な社会を推進するためや経済の発展のためにも用

いられなくてはならない。

D X に類似・関係する言葉として、I T や I C T や I o T や A I がある。I T は、情報技術、I C T は、情報通信技術、I o T は、モノのインターネット、A I は、人工知能と訳されるが、いずれも D X に含まれる概念であろう。

D X も G X も外国から来た時代の流れの中にあるものであるが、上下水道事業は、電力事業やガス事業と共に、よりよい公益事業を目指し、D X にも G X にも取り組まねばならない。また、海外水ビジネスも、D X と G X の流れに沿って対応していく必要がある。

2021年9月にデジタル庁が発足したが、当面の課題は、①行政サービスの電子化の遅れ、②バラバラな国と自治体のシステム、③マイナンバーカードの利便性の向上、への対応である。D X と G X のコラボは、環境省の今後の取組みにも大きく関わってくるであろう。また、今後のデジタル庁の政策立案においても重要な調整課題となろう。

(アリス)